

「大津川 オオカワデシヤ調査・駆除活動」報告

手賀沼流域フォーラム実行委員会・大津川をきれいにする会

事前調査

2011年11月大津川河口でオオカワデシヤを初確認後、フォーラム事業として調査・駆除を実施してきた。

今年度は、1月25日・2月8日・9日調査を実施し、緊急度の高い逆井方面水路と隣接する湿地、及び上大津川の高南台方面の水路で駆除することを決定した。



駆除活動 2021年3月14日 作業時間 (1)9:00～11:30 (2)10:00～11:00

(1)上大津川高南台方面水路

報告：大津川をきれいにする会 興石邦夫

参加：大津川をきれいにする会 10名

- ・ オオカワヂシャを手で抜き取り、水で泥を落とし土嚢袋に入れ、リヤカーで集積場へ運搬した。
- ・ 前日の豪雨で水かさが増してオオカワヂシャは殆ど水没し、水が濁って見えにくかった。またバイパス道路の橋懸け工事中で土嚢による堰があり、その上流が腰より深かったため、そこは駆除できなかった。
- ・ 流れが速く、オオカワヂシャの葉などが流れたので、今後は川下に網を設置して流出したオオカワヂシャを捕捉するよう対策をとりたい。

駆除量：土嚢袋 25



(2)逆井方面水路と隣接する湿地

参加：12名（外来水生植物調査駆除登録ボランティア3名、美手連3名、フォーラム実行委員6名）

- ・ 前日の大雨で増水が心配されたが、水路はすでに水位が下がっていたため3名で引き抜きを行い、終了後は湿地の駆除に合流した。
- ・ 水路は盛り土にたくさんの芽生えがあったが、例年より少なめであった。
- ・ 湿地はかつて田んぼだったためひどくぬかるんでいて、足を抜くのが一苦労だった。ぬかるみと悪戦苦闘したが、生息面積が広く全てを駆除することはできなかった。

駆除量 土嚢袋 81



「手賀沼魚類・貝類 調査」

手賀沼水生生物研究会

鈴木盛智

2020年9月20日(土)9:00～15:00 参加13名 天気:曇り

調査はモンドリによる定量調査とガサガサによる定性調査を並行して行った。



	根戸新田	大津川河口	見晴台	フィッシングセンター	フィッシングセンター向い	岩井新田	親水広場前
	9:15～9:45	10:15～10:45	11:20～11:50	12:15～13:20	13:30～14:00	14:20～14:45	14:50～15:15
底質	ミズスマシ号 砂>泥	ミズスマシ号 岩>くぼみに泥	ミズスマシ号 砂<泥	ミズスマシ号 砂<泥	ミズスマシ号 砂<泥	ミズスマシ号 砂<腐植質の泥	ミズスマシ号 砂<泥
	モンドリ: 6		モンドリ: 5	モンドリ: 5	モンドリ: 5		
モツゴ	118		5	99			
ギンブナ							
タモロコ							
ツチフキ				1			
タイリクバラタナゴ	3		1	9			
ヨシノボリ	1						
ヌマチチブ				1			
スジエビ	1			71			
テナガエビ				1			
シナヌマエビ							
タウナギ							
カダヤシ				2			
ブルーギル							
	ガサガサ	ガサガサ	ガサガサ	ガサガサ	ガサガサ		
モツゴ	○	○	○		○		
ギンブナ							
ゲンゴロウブナ		○					
タモロコ							
ツチフキ	○	○					
タイリクバラタナゴ	○	○			○		
タイリクバラタナゴ稚魚	○	○					
ヨシノボリ	○	○	○				
ヌマチチブ	○	○					
スジエビ	○	○	○		○		
テナガエビ		○			○		
シナヌマエビ	○		○				
タウナギ	○		○		○		
カダヤシ							
ブルーギル	○	○	○				
ドブガイ生体	2 (稚貝1)	1	3		8		
ドブガイ貝殻	○	○	○		○		○
イシガイ貝殻					○		
カラスガイ貝殻					○	○	
カワヒバリガイ							
ナガエツルノゲイトウ	○	○				○	
オオバナキンバイ	○	○				○	

移動中確認した魚類

ハクレン、ボラ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ



根戸新田ではナガエツルノゲイトウ、オオバナキンバイの特定外来植物の生息域の拡大が顕著であった。生き物の数、種類ともに今回は一番多く、外来植物下が隠れ家として機能している皮肉な結果。



昨年まであった手賀沼大橋下のハス大群落は全く無くなってしまった。原因は不明。そのため腐泥が下流域に達し、底質への影響が大きく、親水広場下流や岩井新田のヨシ、ガマ群落も比べると大幅に減少した。また魚類の生育状況も例年より育ちが遅く小さい個体が多かった。例年フィッシングセンターでは数多くのコイ科の小型魚類が確認できるが、今年は半分以下に減少した。貝類の生体確認数は手賀沼大橋上流部では例年並みに密度は薄く、見晴台ではやや減少、フィッシングセンターでは例年通りであったが、岩井新田ではハスが枯れた影響もあり全く確認できなかった。



沼本体のフィッシングセンターでのモンドリ調査で初確認したカダヤシ